

「事業報告・決算」承認される

―常議員会・通常議員総会を開催―

6月3日に令和7年度第1回常議員会を、また6月26日に令和7年度通常議員総会を開催し、令和6年度事業報告・決算等について審議され、いずれも原案通り承認決定されました。

釜谷会頭は「現在開催されている万博が盛り上がりを見せているが、これを契機に関西の経済界も盛り上がりを見せていければと思う。万博に合わせて神戸空港への国際便が就航したことを受け、これを機に神戸以西での観光も深めていきたい。また、7月に開催される参議院選挙について、人材確保や物価高などの問題の打開に向けて、選挙という一つの手法によって県民の意見を示していきたい、ぜひ投票を」と述べました。

また、欠員となった常議員の選任も行い、新たに以下のとおり選任されました。

【常議員】久保 清純
三輪運輸工業(株) 加古川支店
執行役員支店長
(任期) 令和7年6月26日
～令和7年10月31日

笑顔と歓声響く熱戦

―会員交流ボウリング大会を開催―

6月16日、ニッケパークボウルにて第17回会員交流ボウリング大会を開催し、30チーム118名の参加者が熱戦を繰り広げました。



団体優勝(有原溶接工事チームと山本副会頭(左端))

毎年恒例の大会、申込開始後すぐに定員に達するほど好評で、当日も多くの参加者の笑顔と歓声に包まれました。10代から70代まで世代を超えた交流の場となり、チームメイトと協力しながら、楽しく白熱した試合が展開されました。

個人の部で優勝を飾った逢坂さんからは、練習の成果を出せてよかったと喜びの声が聞かれました。

団体戦、個人戦の上位入賞者は次のとおりとなりました。(敬称略)

【団体の部】
▽優勝・2位 (有原溶接工事)
▽3位 逢坂鋳金塗装
【個人の部】(カッコ内は事業所名)
▽優勝 逢坂光昭(逢坂鋳金塗装)
▽2位 植田 勇一(株播州生コン)
▽3位 畑 富屋(有原溶接工事)

青年部

青年部を深く見る

―オリエンテーションを開催―

6月27日、商工会議所にて新入会員オリエンテーションを開催しました。当日は多くのメンバーと新入会員にご参加いただき、青年部の活動内容や目的について理解を深める貴重な機会となりました。ディスカッションでは、山本監事と竹内監事より、青年部に所属する意義についてお話しいただきました。実際の活動を通じて得られる仲間とのつながりや、地域貢献のやりがい、自己成長の大切さなど、経験に基づく言葉に、メンバーも新入会員も熱心に耳を傾けていました。

参加者からは「貴重なお話が聞けた」「今後の活動が楽しみ」といった前向きな声が多く聞かれ、青年部としても非常に有意義な時間となりました。また、新たな仲間たちが今後どのように成長し、活動に関わっていくのかを思うと、大きな期待と楽しみが膨らみます。今後も仲間とともに切磋琢磨しながら、地域の発展と自己成長に向けて活動してまいります。

(経営研修委員長 赤木 龍弘)

女性会

美しく楽しい武生での時間

―関女連総会 武生大会に参加―

6月5日、福井県越前市で開催された第36回関西商工会議所女性会連合会総会 武生大会へ参加しました。



副会長3名での参加

新幹線で越前武生駅に到着し、会場の越前市文化センターへ。会場内では物産展が開催されており、名物の羽二重餅を手にし、総会ホールへと向かいました。ハープの生演奏で迎えていただき、総会が開催されました。アトラクションの落語を拝聴し、閉会となりました。

続いて2つの会場にわかれての懇親会へ参加し、兵庫県の皆様と同じテーブルで懇親を深めました。楽しい会話、美味しいお料理、名物のおろしそばを堪能できました。次回は長浜市での開催が予定されています。武生商工会議所女性会の皆様のおもてなしに感謝の一日でした。

(副会長 立花 早苗)

これが私の会社です

―事業所紹介を開催―

6月17日、第16回事業所紹介が開催され、会員2名による発表が行われました。

《イトウ商会 伊藤美子氏》
加古川市で唯一の公衆浴場「千代の湯」や墓地管理事業を手がける伊藤さんは、10年前に経営者だったご主人を亡くされ、突然事業を引き継ぐことに。専業主婦から一転、事業は縮小しながらも前を向き続け、「千代の湯」を守ってこられました。



伊藤氏のアイデアから学ぶ

近年は食堂フロアでイベントを開催し、飲食コーナーではご当地グルメを取り入れた食事を用意するなど、お風呂で疲れを癒すだけでなく、楽しい時間を過ごしてもらえよう工夫されています。地域の方々が世代を超えてつながれる場所を目指しておられます。

《株想侑 森田恭子氏》
「就労継続支援B型事業所ひなた」

と「グループホームひなた」を運営する森田さんは、プロスポーツ選手を引退後、大病により寝たきり生活を経験。そのとき感じた孤独や不安から、障がいのある方の支えになりたいという思いが芽生え、それが「自身の使命」と感じるようになったそうです。



森田氏の想いを知る

3年前、弟とともに事業を立ち上げ、現在は19〜65歳の利用者と、まるで「みんなのお母さん」のように本気で向き合う毎日を送られています。「怒るときも泣くときも本気で」と話す姿からは、あたたかな情熱が伝わってきました。今後は、障がいのある子どもや児童養護施設の子どもたちへの支援にも力を入れていきたいとのこと。

お二人のお話からは、それぞれの想いと歩みが地域にあなたたかさを広げていく未来を感じました。その前向きな姿勢は、私たち女性会会員にとっても大きな励みとなります。

(理事 嶋田 純子)